



虫めがねは、どうして物が大きく見えるの

虫めがねはとつレンズ

虫めがねで近くを見たり、遠くを見たりすると、大きく見えたり、さかさまに見えたりします。

真ん中がふくらんでいるレンズを、とつレンズといいます。虫めがねは、とつレンズでできています。とつレンズを通りぬけた光は、くっ折（折れ曲がる）して一つの点に集まります。この点をしょう点とよんでいます。

とつレンズでは、どちら側から光をあてても、光は一つの点に集まるので、しょう点は両側に一つずつあることがわかります。

見る物が、しょう点の内側にあるとき

とつレンズの中心を通る光は、そのまま、まっすぐに進みます。

とつレンズに平行に進んできた光は、くっ折した後、しょう点を通ります。

虫めがねで物が大きく見えるときは、その物がしょう点の内側にあるときです。見える物が、しょう点の外側にあるときは、その物はさかさまに見えます。（監修・青木 国夫）

